

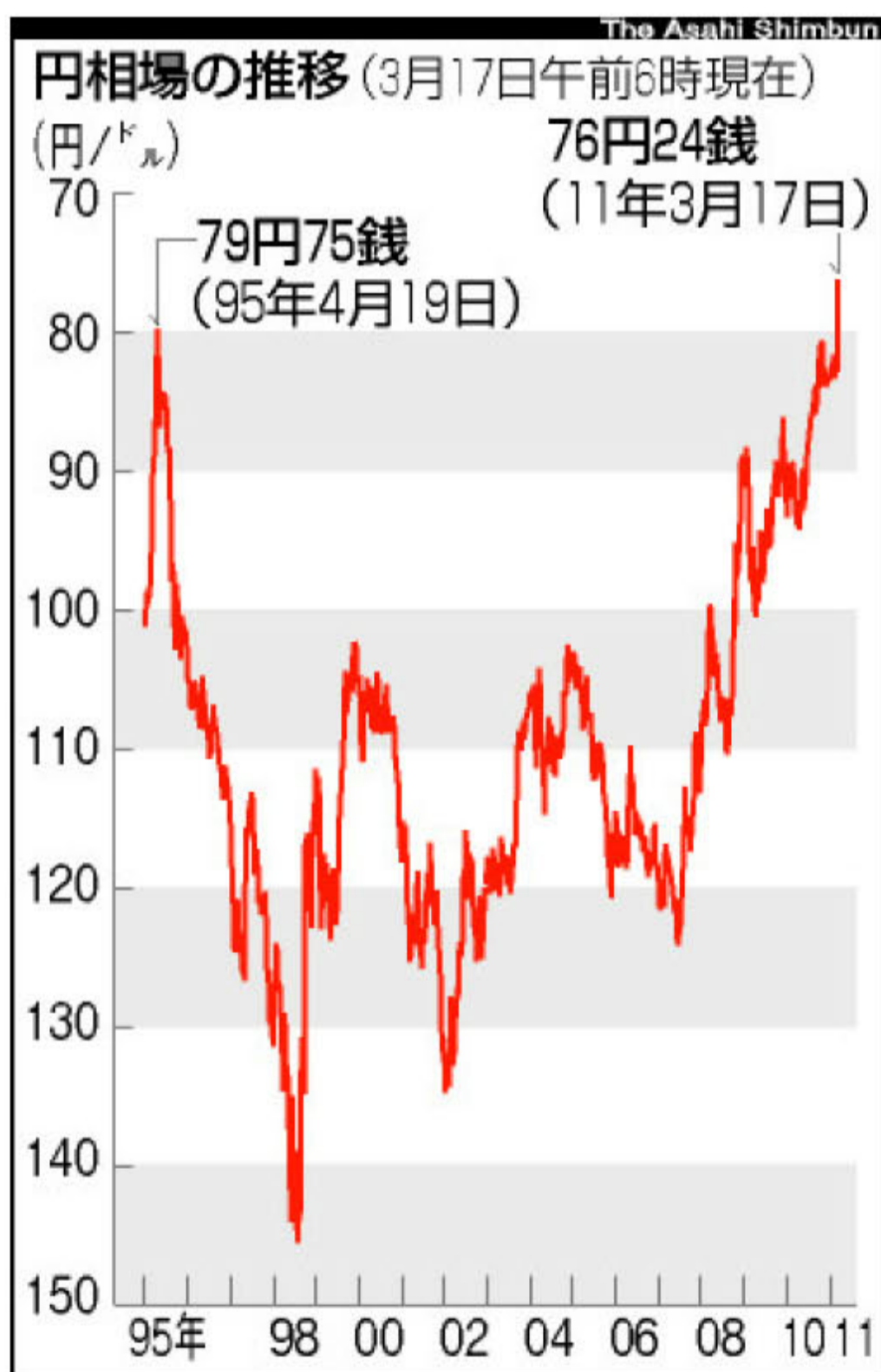
円急騰 76円台

戦後最高値を更新

円が戦後最高値を一気に更新した。16日午後(日本時間17日早朝)のニューヨーク外国為替市場で1ドル=80円を突破し、1995年4月につけた1ドル=79円75銭の最高値を15年11カ月ぶりに超えた。シドニー市場では1ドル=76円20銭台まで跳ね上がった。

円は前日と比べると一時、5円近く値上がりする異例の上げ幅になった。シドニーの後に始まった東京市場でも1ドル=79円台で推移している。ただ、東京市場の取引が始まってから、政府・日銀による「円売りドル買い」の為替介入への警戒感が強まっており、円の上げ幅は縮んでいる。午前10時現在の円相場は、前日午後5時時点より1円42銭円高ドル安の1ドル=79円50銭～53銭。円はユーロに対しても上昇し、一時、1ユーロ=106円50銭台をつけ、半年ぶりの高値水準になった。午前10時現在、同2円56銭円高ユーロ安の1ユーロ=110円43～46銭で取引されている。

円高が進んだ最大の要因は「日本経済が危機的な状況に陥り、世界経済に悪影響を及ぼす」(国内大手証券)との見方が強まったためだ。福島第一原子力発電所の事故が深刻化したのを受け、欧州連合の高官が福島原発事故を「制御不能」と述べたと伝わったため、16日の欧米市場で株式が大幅安になった。16日発表の米国の2月の住宅着工件数が大幅に減り、米景気の回復期待も急速にしぼんだ。



16日のニューヨーク金融市場では国債が買われ、米長期金利が大幅に低下。円相場も1ドル=80円台後半で始まった後、戦後最高値を更新した。その後、取引量が比較的少ないシドニー市場に取引が移った直後から円相場は急騰、約20分後に1ドル=76円20銭台をつけた。